

## 第4章 現状と課題

### ⑥歴史的風土の保存と景観形成

国営飛鳥歴史公園祝戸地区展望台や甘樫丘地区展望台、また明日香村役場屋上から飛鳥盆地一帯を望むことができる。飛鳥の政治・文化の中心地である真神原を一望する展望として、往時の飛鳥宮の風景を今に伝えることができる周辺景観との調和を図ることによる、新たな飛鳥の景観形成に向けた取り組みが必要である。

また飛鳥宮跡の北側は、明日香村の歴史的・風土景観の主要な構成要素である農地や農地越しに見える山地・丘陵の景観が広がっている。歴史的風土阻害要素の撤去・修景を推進し、周辺の土地利用に応じて緩衝帯を設置するなど、歴史的風土・景観の保全に配慮が必要である。

飛鳥宮跡南側は、都市計画法による市街化区域であり、飛鳥宮跡全体の史跡整備に伴い、明日香の歴史的風土景観を保持するためには、宮跡内からの景観阻害にならないよう、工夫が必要となっている。また、一般の人々がイメージする自然と人々の生業が共存する近世から現代に至る飛鳥の歴史的風景と、飛鳥が国の中枢であり人工構造物が整然と並ぶ飛鳥宮跡当時の風景は全く異なるものであり、史跡整備において当時の建築物や構造物を復元する場合は、これまで培われた景観を保全するための配慮が求められる。

## (2)活用

発掘調査で検出された飛鳥宮跡の遺構は、全て地下に保存されている。現在の史跡整備地は全体からみればわずかであり、来訪者は容易に宮殿の全貌を推測できない現状である。

飛鳥宮跡の計画対象区域全体を対象に、宮殿の広がりが見えるような場の整備を進めるため、地下遺構の表示や復元展示、情報発信など様々な手法を組み合わせることで、飛鳥宮跡を訪れた様々な人々が、その本質的価値を理解し次世代へ継承してもらえるようにする必要がある。

史跡地の内外やその周辺部においては、来訪者の利便性を図るための案内やサービス施設や、イベント等のアクティビティなソフトの充実など、ハード・ソフト面の双方での取り組みを進めると共に、明日香村全体の活性化を目的に、村内外にある関連遺跡とのネットワーク化を進めていく必要がある。

### ①本質的価値の学びと継承に向けた取り組み

来訪者が容易に飛鳥宮跡の姿を感じられるためには、臨場感の高い宮殿空間をいかに表現し、その空間の中で多様な来訪者が飛鳥宮跡の意義や価値を様々な手法で学び体験できるような取り組みが求められる。

そのため、遺構の展示についての様々な工夫や解説・案内など、ハードとソフトの組み合わせた様々な取り組みを行うことが必要である。

また、その説明は一般の来訪者にも容易に理解できる内容・文言にてまとめるとともに、多言語化にて海外からの来訪者への情報発信も可能にすることが必要である。

### ②情報発信手法の充実

明日香村内では、多様な主体がイベント、シンポジウム、見学会などを通年で実施し

ており、飛鳥宮跡でも「飛鳥 光の回廊」などのイベントが開催されている。しかし、飛鳥宮跡の価値をより深く知るための取り組みは少ない状況である。

飛鳥宮跡の価値をより広く発信していくためにも、考古学や歴史学など様々な分野の最新研究成果の発表・展示や、成果を基にした当時の生活や技術をより深く体感できる宮跡ならではの祝祭の開催など、飛鳥宮跡への関心を多くの人に持ってもらう情報発信の充実が必要である。

### ③新しい知見の取り込みと継続的な更新

飛鳥時代の様式を伝える建築物は寺院以外に現存するものがほとんどなく、宮殿を復原する際に必要な情報は極めて限定される。一方、発掘調査の進捗とともに様々な学際的な研究が進展することが期待される。

そのため、飛鳥宮跡の活用は、新しい発見や知見の増進に併せ、その内容を更新していく取り組みが必要である。

### ④関連遺跡とのネットワーク化

飛鳥宮跡周辺には、寺社、陵墓、遺跡などの歴史文化資源や、万葉文化館、飛鳥資料館、国営飛鳥歴史公園といった施設が複数あり、これらをつなぐ周遊ルートの形成や地域全体としての魅力や情報発信力を高めることを目的とした「明日香まるごと博物館構想」に基づき運用されている。飛鳥宮跡についても拠点施設としての位置づけがなされていることから、この構想とリンクした活用を図る必要がある。

## (3)整備

遺構の確実な保存を前提にしつつ、飛鳥宮跡の計画対象区域全体を対象に、宮殿の広がりが見えるような場の整備が必要であり、多様な活用の場として生かされるような施設整備が必要である。

### ①地下遺構の確実な保存

飛鳥宮跡の本質的価値の一つとして、地下に残る飛鳥宮跡（特にⅢ期）の遺構は宮が廃絶したままの状態で見え、当時の地形も現在に継承されている等、古代の宮殿の中でも保存状態が良い稀有な例であることが挙げられている。

この本質的価値を失わぬよう、飛鳥宮跡の史跡整備においては、地下の遺構の確実な保存を前提として進める必要がある。

### ②学術的根拠に基づく展示と遺構表示

飛鳥宮跡の計画対象区域全体を対象に、宮殿の広がりが見えるような場の整備にあたっては、これまでの調査研究により判明した最新の学術的根拠に基づき整備内容を検討し、学識者等専門家の確認を受ける必要がある。

また、現地に整備する施設は、遺構を可視化するための宮殿の復元展示、当時の眺望を望む視点場の設定、多様な活用場として利用できるようにするなどの検討が必要である。

## 第4章 現状と課題

### ③老朽化した既存整備地の改修

飛鳥宮跡内の北東隅の「史跡伝板蓋宮跡」として整備された場所は、解説板をはじめとした施設も老朽化し、史跡名やその内容が現在も更新されていないため、史跡整備に伴い、全面的な施設更新を行う必要がある。

### ④住民や来訪者が快適に過ごせる空間づくり

現在、飛鳥宮跡の近傍には飛鳥京跡苑池の休憩舎があるが、その他の来訪者が休息する場所は少ない。宮跡北側には、明日香村の歴史的・風土景観の主要な構成要素である水田・丘陵等が広がり、良好な景観を構成していることから、飛鳥宮跡は来訪者が歴史を知り学ぶ場所のみならず、村民や来訪者が憩いくつろぐ場所としてのポテンシャルも高い。

村民や来訪者が、快適な環境となるよう緑陰の形成や休憩施設、トイレ等の環境整備が必要である。

また、飛鳥宮跡は明日香村中心部に設置される広場空間として、イベント等の開催地としての利用も想定されることから、必要な施設・設備の検討も必要である。

### ⑤周辺歴史文化資産等とのネットワーク・アクセスの向上

飛鳥宮跡は、近傍の著名な遺跡や明日香村全体に立地する遺跡の中で中心的な位置に立地し、明日香村の村内の歴史資産をネットワーク化した「明日香まるごと博物館」構想でも拠点施設として位置づけられ、相乗効果でよりその価値を向上させるものである。

飛鳥宮跡の整備では、周辺資産との周遊も考慮したサイン形状の統一、駐車場の設置、アクセス道の設定など、ネットワークとアクセスの向上の検討と併せ、隣接する飛鳥京跡苑池と連携した周遊路の設定や便益施設、教養施設の一体的整備が必要である。

## (4)運営・体制の整備

今後の事業実施に向けて、具体的な事業展開ができる体制を構築していく必要がある。

### ①管理主体の設定と各主体の役割分担の明確化

現状では文化財保護法上の管理団体は設定されていないが、主たる土地所有者として奈良県が管理している。今後飛鳥宮跡の保存と活用を効果的に進めていくためには、発掘調査、保存、整備、情報発信、史跡の日常的な運営管理について、関係する国、県、村、地域住民（団体）、周辺社寺、研究者、民間事業者等の役割分担を明確化し、飛鳥宮跡の保存と活用のための取組みを推進する体制づくりを行う必要がある。

### ②多様な主体の参画に向けた意識づけ

各種の活用の取組みについて、さまざまなノウハウやアイデアを集めることができるよう、多くの人に参画する意識をもってもらえる工夫が必要である。

### ③保存と活用を支える運営施設の設置

飛鳥宮跡の保存と活用を向上させるには、継続的な発掘・調査研究成果の情報発信、

遺構展示の日常管理、多様な主体が参画する諸活動のサポート等、様々な機能を持つ運営体制の構築が必要であるとともに、その運営体制が拠点とする施設の設置が必要である。

